

第6学年 道徳科学習指導案

日 時 平成29年 9月28日 (木) 6校時

児 童 6年2組 男13名 女14名 計27名

指導者 板垣 幸紀

1 主題名 過ちを許す (B 相互理解, 寛容)

2 資料名 「銀のしょく台」(出典 東京書籍 明日をめざして 6年)

3 主題について

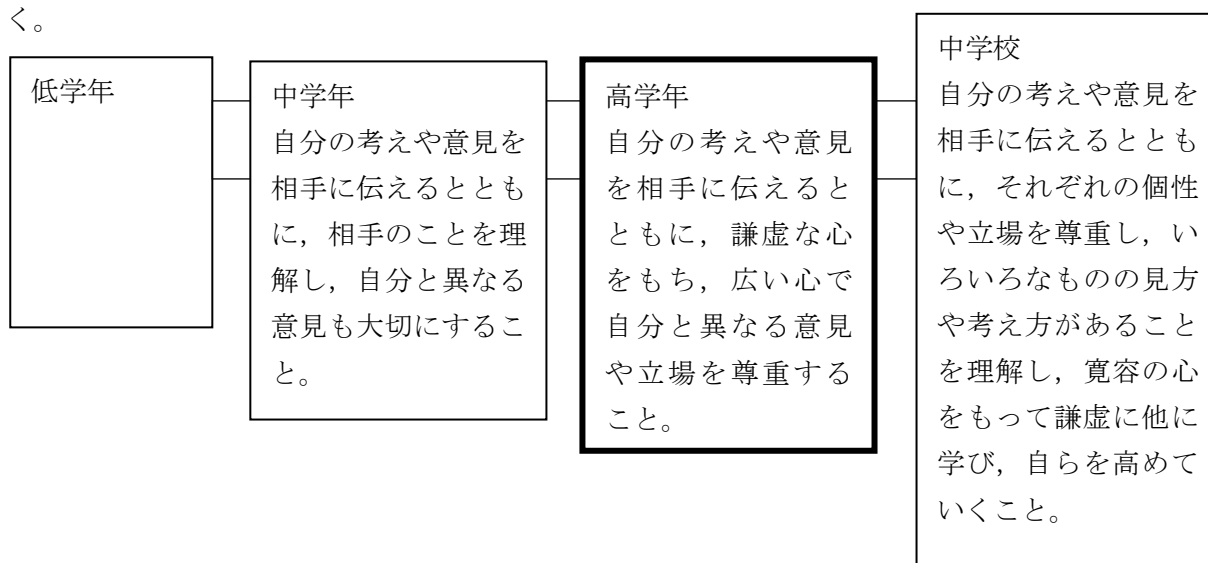
(1) 児童について

この時期になると、自分のものの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のものの見方、考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。また、考えや意見が合う者同士が接近し、そうでない者を遠ざけようとする行動が見られることがある。学級の子供たちを見ると、特に下級生との関わりにおいては、自分と異なる意見や立場を尊重しながら、適切に善悪の判断をしたり過ちを許したりすることができている。しかし、学級内では、他人の行動を善悪だけにこだわって決めつけてしまったり、他を許そうという気持ちになかなか出来なかつたりすることがしばしば見られる。

道徳の授業では、話し合いの時間を多く設定するようにしている。児童は、自分の意見を持ち、それを友達と伝え合いながら、様々な考え方に触れたり自分の考えとの相違点を探ったりすることを楽しみにしている。時には、自分の意見をなかなかもてない児童もいるが、その場合は、友達の考えから学んでよいことを伝えてあり、しっかりと耳を傾けることができている。

(2) 価値について

第5学年及び第6学年の内容の「B 相互理解, 寛容」は「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。」とある。これは、広がりや深まりのある人間関係を築くために、自分の考えを相手に伝えて相互理解を図るとともに、謙虚で広い心をもつことに関する内容項目である。この内容項目は、次のように発展していく。



人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、自分とは異なる意見や立場も広い心で受け止めて相手への理解を深めることで、自らを高めていくことができる。異なった意見や立場をもつ者同士が互いを尊重し、広がりや深まりのある人間関係を築くためにも欠かせないことである。また、寛大な心をもって他人の過ちを許すことができるのは、自分も過ちを犯すことがあると自覚しているからであり、自分をふり返る謙虚な姿勢があるからこそ他人に対して寛容になることができる。このように、寛容さと謙虚さが一体となったときに、広い心でより良い人間関係を形成していくことができると考える。

しかし、私たちは、自分の立場を守るため、他人の失敗や過ちを一方向的に非難したり、自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど、自己本位に陥りやすい弱さをもっている。自分自身が成長の途上であり、至らなさをもっていることなどを考え、自分を謙虚に見ることについて考えさせることが大切である。相手から学ぶ姿勢を常にもち、自分と異なる意見や立場を認めることや、広い心で相手の過ちを許す心情や態度は、多様な人間が共によりよく生き、創造的で建設的な社会を創っていくために必要な資質・能力である。

(3) 資料について

本資料は、ビクトル・ユゴーの名作である「ああ無情」の感動場面を取り上げた資料である。ジャン・バルジャンは長い服役を終え出所してきたが、だれからも敬遠される。そんなときにミリエル司教は彼を温かく迎えた。しかし、ジャンは銀の食器を盗んで逃げてしまう。憲兵に捕まって連行されたジャンに対し、司教は怒るところか食器はあげたものであると言い、さらに銀の燭台まで持たせた。「罪を憎んで人を憎まず」という言葉どおりの、キリスト教の精神に基づく寛容の心が示される。ミリエル司教の言動を通して、人を許すことの意味を感じとらせてくれる感動資料である。

(4) 指導にあたって

導入では、人の過ちを許した経験について話し合い、寛容な心をもつことの意味についての方向付けを行いたい。

展開では、ワークシートへの記入、グループでの話し合いや全体での話し合いを通して、司教の考え方や生き方について明らかにしたり、呆然と立ちつくすジャンの気持ちを考えさせたりしたい。そして、司教の寛容な心が、ジャンの心を大きく変えたということに気付かせたい。

終末では、司教の姿から感じたことを自分の言葉でまとめさせ、本時の学習で学んだことを書かせたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

謙虚な心をもち、広い心で人の気持ちや立場を重んじ、相手の立場に立って考えようとする心情を育てる。

(2) 研究内容に関わる手立てについて

【研究内容1】・・・言語活動を充実させる単元構想

・「2 (4) 指導にあたって」を参照

【研究内容2】・・・思いをもって伝え合う言語活動

・人の過ちを許した体験について事前に調査しておき、それを振り返ることで、寛容な心をもつことの意味についての方向付けを図る。【言語活動1】

- ・司教の思いについて、自分の考えをはっきりさせるためにワークシートを工夫する。
 - ・他者の考えに触れたり自分の考えを変容させたりしながら、司教の思いについて深めさせるために、グループで話し合う場を設定する。【言語活動2】
- 【研究内容3】・・・高まりを自覚させる振り返り
- ・司教の姿から感じたことを自分の言葉でまとめさせる。
 - ・振り返りの視点をもとに、学習を通して学んだことをまとめさせる。

(3) 展開

	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 5分	<p>1 人の過ちを許した経験について話し合う。</p> <p>2 課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・謝ってくれたとき。 ・「わざとではない」とわかったとき。 ・それほど困らないとき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に調査した結果をもとに経験を振り返らせ、寛容な心をもつことの意味についての方向付けをする。【言語活動1】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「許すこと」について考えよう。</div>		
展開 35分	<p>3 「銀のしょく台」を読み、話し合う。</p> <p>○銀の食器を持って逃げながら、ジャンはどんなことを考えたでしょう。</p> <p>◎司教が憲兵に「思いがいです。」と言ったのは、どんな気持ちからでしょう。</p> <p>○今にも気を失いそうに立ちつくしていたジャンは、どんな気持ちだったでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これを売ればお金になる。 ・暮らしに困らなくなる。 ・うまくいったぞ。 ・見付からなければいいが。 ・捕まったのか、かわいそうに。 ・これ以上牢屋に入ったら、もうジャンはだめになってしまう。 ・ジャンには人を信じられるようになってほしい。 ・正しい人間になってほしい。 ・裏切った私を許してくれるなんて…。 ・司教はなんて心の広い人なのだろう。 ・これからは改心して生きていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料後半のジャンの思いと対比するために、ここでのジャンの気持ちをしっかり押さえておく。 ・困り果てて悪さをしてしまうジャンの心の弱さに気付かせる。 ・ワークシートに書くことで司教の思いを十分に感じとることができるようにする。 ・グループ内でそれぞれが感じたことを話し合い、司教の思いについて深めさせる。【言語活動2】 ・ジャンに改心してほしいという司教の思いに気付かせる。 ・資料前半のジャンの気持ちと対比して、司教の寛容な心が、ジャンの心を大きく変えたということに気付かせる。

	4 自分の生活を振り返る。 ○司教の行動をどう思いますか。		・司教の人間愛に満ちた心，広い心，謙虚な心についての記述を全体に広める。
終末 5分	5 今日の学習について振り返る。 ○今日の学習を振り返って書きましょう。		・振り返りの視点を与え，学習を通して学んだことをまとめさせる。

(4) 板書計画

